

きょうかん賞

「母へ」

北村 可也子さん（京都市中京区）

昭和が平成に変わろうとした寒い冬の朝 私の母が他界した。

「お母さん・早く元気になって 皆の為に働きたい。」
そんなささやかな願いを残して…。
一人っ子で何もできなかった私。母が全てだった。
だからこそ母の人生分一生懸命生きる と誓った 16の春。
卒業文集には“自分が母になれた時 生き甲斐を感じるだろう”と書いた。

あれから21年。
重いカバンを背負い中学へ登校する姿をそっと見送り
空っぽのお弁当箱を洗い
山盛りの洗濯物を干し
恋の話に割り込んだり
頑固に汚れた靴をごしごし洗って
おひさまにお布団を干したりとか
きっと
そんなことを
母はもっともっと・もっとしたかったのだろうな。。
お母さん
あなたの命は今、孫へ繋がって生きていますから安心してね。
子供達 お婆ちゃんのような立派な母ではないけれど生まれてきてくれて本
当にありがとう。
“いつまでも元気で皆の為に働く” ことが
三児のお母ちゃんになれた私の生き甲斐です。